

研修で
学校が
変わる

中堅教諭等資質向上研修⑤ 6年目研修②まとめ

令和2年11月19日(木)

web会議による遠隔講義



「自治力のある学級づくり」

子どもたちのよりよい人間関係を育むピア・サポート、
自治力の育成につながるピア・メディエーションの活かし方

講師 池島 徳大 氏(日本ピア・サポート学会 会長)

【研修のねらい】

■自治力の基盤となる子どもたちのよりよい人間関係の育成を図るピア・サポートとピア・メディエーションについて理解を深める。

心の扉を開ける3つのプロセス ー良質な関係モデルをつくるー

- 第1段階 ワンネス (One-ness)** 響く相手の身になろうとする「分かろう」とする **ねぎらい いたわり**
- 第2段階 ウィネス (We-ness)** 支える相手の役に立つことを一緒に考えようと提案する態度
- 第3段階 アイネス(I-ness)** 自分の気持ちと自分の考えを打ち出す こちらの側の伝えるべきことを伝える

子どもたちへの関わり方のポイント

- 一人の人として尊重し、ねぎらい、言い分をきちんと聞いてもらえるエネルギーが出る。
- 言ったことを、繰り返して受け止めてもらえる安心感を得る。
- 善・悪の判断をすぐにしないで、きちんと受け止めて聞いてもらえる、防衛を捨てて正直に話そうという気持ちになり、謝ろうとする気持ちが出てくる。
- 正しいことは正しいと穏やかに話し、どうすればいいかを具体的に教えてやると素直に受け入れようとする。
- 子どもが最も恐れているのは、「見捨てられ不安」である。

私は学びをこう活かす・・・6年目

- 最初の一言が子どもへのねぎらいの言葉になるように意識して声掛けを行っていききたい。
- うまくいかない時こそ子どもへの思いやりを忘れずに関わりたい。

私は学びをこう活かす・・・中堅教諭

- 学級で問題行動やトラブルを解決する際、ワンネスーウィネスーアイネスを実践しなければいけないと感じた。トラブルが発生したときにアイネスを優先していたと反省した。3つを実践することは、児童を人として尊重することであり、人間関係づくりの基本である。必ず実践していききたい。

私は学びをこう活かす・・・学校代表

- トラブルの聞き取りはもちろんだが、子どもとの会話の中で、相手を尊重しながら聴くことを心がけていく。本校の職員にも、「安心・表現・絆」という今回のキーワードをもとにして本研修の内容を広げていきたい。

まとめ

- より良い人間関係を育むキーワード **安心・表現・絆の形成**
- 心の扉を開けるマスターキーは **ねぎらいといたわり**
- もめごとの解決には、①**平等**に聞いてもらえた②**自分の言い分**が言えた③**すっきり解決**したの3つの満足感が必要
- もめごとは、話し合いで解決できる力をつける

メディエーション(調停)の定義

- メディエーション(調停)とは何らかの問題で対立関係にある当事者間に、第三者(メディエーター)が入って、話し合いで解決できるように援助する方法をいう。
 - メディエーターは、双方が言い分を十分に話せるよう援助的態度をもつ中立者で、自ら判断を下さない。当事者が解決の提案を行い、合意形成に導く。
- 新しい考え方に基づく解決方法**
・対立が生じるのは自然なこと・解決するのはあくまでも当事者

メディエーション(調停)の進め方

(1) 話し合いの3つのルールへの提示

- ①正直に自分の気持ちを話すこと
- ②しっかりと相手の話を聴くこと
- ③相手が話しているときは、遮らないで聴くこと

言い分を
聴くこと

(2) 聴き合う

- ①ルールを守って、正直に言い分を話し、何が問題か「事実」を明確にする。
- ②互いの「感情」を中立・公正な態度で受け止め、食い違いをはっきりさせていく。
- ③それぞれの「願い」を出し合い、「どうしたいのか」「どうして欲しいのか」具体的に聴き合う。

(3) 解決に向かう

- 話し合いを振り返り、双方が折り合うことができる合意点を見つける。

私は学びをこう活かす・・・6年目

- 今回、公平に言い分を最後まで聞くことは改めて大事だと分かった。全職員でこの取り組みができるようにしたい。
- 子どもにもめごとが起きたときは、教師が指示指導し続けるのではなく、思いを聞き出す尋ね方を心がけ、子ども自身に解決方法を考えさせるなど、親和的な解決方法を心がけていきたい。

私は学びをこう活かす・・・中堅教諭

- 子ども自身で解決できるような話し合いの仕方を知っておくことは、自治力のある学級づくりになる。その力は、子どもが大人になっても必要な力であると思った。

私は学びをこう活かす・・・学校代表

- 子どもを一人の人間として尊重し、感情や事情、思いに少しでも耳を傾けていける人でありたい。子どもと心を通わせて、子どもの言葉に耳を傾け心が元気になる時間を作っていきたい。
- 双方の言い分を公正公平に聞き、合意形成して解決に向かえるように共感的態度や自分が手本になることを心がけたい。